能登洋子先生を送ることば

経営学科長　三ツ木芳夫

本学助教授能登洋子先生は、2007年3月に経営学科の編成替えで秘書専攻最後の学生を社会に送り出すとともに、先生ご自身もご退職を迎えます。

先生は本学経営学科の開設に伴い、1982年4月に全国で初めて短期大学に認可された秘書専攻の専任講師として就任されました。先生は本学にご勤務されるまでに東京銀行札幌支店の有能な秘書としての実務経験に加え、長年秘書養成の専門学校での教育に携わられていらっしゃいました。秘書専攻の教員となられてからはそれまでの豊富な経験を生かしながら文字どおり秘書養成の中心になられて学生の教育に励んでくださいました。特にロールプレイングを交えた先生の厳しい教育は学生たちの能力を引き出すことに定評がありました。そのご努力の成果は優秀な成績で秘書資格を得た学生の文部科学大臣表彰や団体奨励賞表彰に現れています。在学中に、能登先生より教育と訓練を受けて巣立った卒業生たちは、社会の第一線で活躍していますが、先生にその力を引き出された学生たちはいつまでも先生との交流を大切にしているということを聞きます。このことからも先生の教育姿勢とお人柄をうかがうことができると思います。

現在の中央棟研究室ができるまでは、経営学科教員の研究室はもと第一高校の生徒寮だった5号館にありました。何年前のことだったでしょうか、5号館の能登先生の研究室を訪ねた折に、先生の教育に対する考え方をうかがったことがあります。ちょうど4階の研究室から見える隣のホップ園の跡地から草野球に興じる学生たちの声が聞こえていましたから、6月頃でしょうか。のどかな雰囲気を覚える中で、先生は秘書資格の獲得を通してこれからの女子学生教育への思いを熱く語ってくださいました。実業界との深いつながりをお持ちの先生は短大部の就職委員としても長年にわたって学生たちの卒業後の進路に

ついてひとかたならないお力添えをいただきました。

先生の教育に対する情熱は一貫して今日に至るまで変わることがなく、まさに全力投球で頑張ってこられました。

こんなこともありました。先生と私が学生たちを引率し、アメリカ西海岸への海外研修でワシントン州立大学に立ち寄った際、「自分もこのようなキャンパスで勉強したい」と言っておられましたが、それをみごとに実現し、2000年から一年間ワシントン州立大学に留学され、「女性学」の研究をなさいました。その成果の一部は本紀要に発表されております。

また先生は教育研究活動とともに、ご家庭において家のことはもちろんのこと子育ても両立されておられました。しかし、その大変さについて私ども男性の同僚はこれまでに一度も愚痴めいたことをうかがったことはありませんでした。誰にも見えないところで様々な努力を続けてこられた結果が、先生の「女性学」研究において実を結んだものと思います。

ここに、能登先生の長年にわたるご尽力に心から感謝を申し上げるとともに、これからもご健康に留意され、さらなるご活躍をお祈りし、送別のことばといたします。